

# まちから

広報



かにえ

No.583

# 3

2020.March令和2年

探偵小説はこの机から生まれた



いつとんで来たか机に黄の一葉  
小本

町制施行130周年



©1996, 2020 SANRIO CO., LTD.  
APPROVAL No.G600201

かにぬくん  
POMPOMPURIN

## 特集 小酒井不木 生誕130年

6 今月のMVP

7 蟹江町公式ウェブサイト  
リニューアル

10 Do! Kanie

14 健康ガイド

16 TOWN TOPICS

17 図書館だより



時代を越えて読み解く

# 小酒井不木



3月29日 日

午後1時30分～3時30分

産業文化会館

講師 あべ たかし 阿部 崇 氏

小酒井不木HP「奈落の井戸」主宰  
「小酒井不木探偵小説選Ⅱ」編著

定員 約130人(参加無料)

不木の作品を後世に残すために製作したショートムービーを初披露!



原作 小酒井不木  
協力 つつみ ゆき ひこ 堤 幸 彦  
主演 にし かわ かず まさ 西川千雅 (西川流四世家元)



全て蟹江町内で撮影!

## 蟹江町出身 探偵小説家

小酒井 不木(こさかい ふぼく)(1890-1929)

明治23(1890)年10月8日出生。光次(みつじ)と命名される。

愛知県海東郡新蟹江村(現海部郡蟹江町)の村長を務めた小酒井半兵衛はんべえの長男。探偵小説家・医学博士・俳人など、幅広い分野で偉大な功績を残した郷土を代表する文化人。

探偵小説の草分け的な存在として、江戸川乱歩えどがわらんぽをはじめ後輩の育成に尽力。

昭和4(1929)年4月1日、急性肺炎により38歳の若さで逝去。



※ 講演会終了後は町公式ウェブサイトからご覧いただけます。  
蟹江町歴史民俗資料館の小酒井不木資料室でも常時上映します。

主催/蟹江町・蟹江町教育委員会

問合せ/蟹江町歴史民俗資料館(蟹江町産業文化会館内)

☎0567(95)3812 ※月曜休館

## 不木から見たふるさと蟹江



不木生家付近から  
母校新蟹江小学校を望む

不木は、自伝で蟹江のことを平凡な田舎だといいつながら、さまざまな思い出を語っている。実家の隣を流れていた日光川は特に思い出に残っていたようで、小さなカニがたくさんいて、シジミ、イナ、コイ、モロコ、ウナギなどが生息していたこと、ススキが穂を見せて、月が水面を照らす風景が美しかったこと、遠くに鈴鹿山麓、多度山、養老山、伊吹山、白山、御嶽山などが見えたことが語られている。

## 蟹江を舞台にした小説



蟹江町内で起こった実際の迷路入り事件をモチーフにした小説「通夜の人々」(大正14年発表)を書き上げている。冒頭で「名古屋から西へ、3里ほど隔たった蟹江という町に起こった二つの悲劇である」と紹介している。

## 後世に残す不木の功績



町立小学校の社会科副読本に、不木は郷土の偉人として紹介され、今もその功績が伝えられている。幼少期の不木は、日光川の渡し船を使って毎日のように、新蟹江小学校に遊びに行っており、親しくなった校長が「学校が好きか?」と聞いたとき、「早く1年生になりたい」と答え、通常より2年早く、4才6か月で小学校に入学した。

## 不木 略年譜

明治23年(1890)	10月8日、新蟹江村(現蟹江町大字蟹江新田)の地主の長男として生まれる
明治28年(1895)	新蟹江尋常小学校入学
明治32年(1899)	新蟹江尋常小学校卒業 蟹江高等小学校入学
明治35年(1902)	高等科第3学年修業 愛知県立第一中学校(現県立旭丘高等学校)入学
明治40年(1907)	愛知県立第一中学校卒業 京都第三高等学校(現京都大学)入学
明治43年(1910)	京都第三高等学校卒業 東京帝国大学医科大学(現東京大学)入学
明治44年(1911)	処女作小説「あら浪」を『京都日出新聞』に連載
大正3年(1914)	東京帝国大学医科大学卒業 同大学院入学、生理学・血清学を専攻
大正4年(1915)	海部郡神守村(現津島市)の地主の長女「鶴見久枝」と結婚。「生命神秘論」を刊行。肺炎を病む
大正6年(1917)	東北帝国大学医学専門部助教授拝命。衛生学研究のため欧米への留学を命じられ、米へ渡航
大正7年(1918)	長男「望」生まれる
大正8年(1919)	英へ渡る。ロンドン滞在中略血療養中にコナン・ドイルの作品を読む
大正9年(1920)	仏へ渡り、帰国 東北帝国大学医学専門部教授拝命
大正10年(1921)	医学博士の学位を受けるも、病のため東北帝大教授を退職
大正12年(1923)	江戸川乱歩「二銭銅貨」で作家デビュー 不木『二銭銅貨』を読む』を寄稿 不木・乱歩の書簡のやりとりが始まる 名古屋市中区御器所町(現鶴舞)に居を構える
大正13年(1924)	「真夏の惨劇」発表以後、小酒井不木のペンネームで作品を発表
大正15年(1926)	「人工心臓」、「恋愛曲線」発表 長女「夏江」生まれる この頃、「ねんげ句会」発足
昭和2年(1927)	「死体蠟燭」発表
昭和4年(1929)	4月1日、急性肺炎のため逝去

# キーワードで知る 小酒井不木



不木にまつわるキーワードを紹介するぞ  
詳しくは歴史民俗資料館に行ってみるのじゃ  
**ポムポムプリンのパパ**  
ダジャレ好き。探偵をしている

## ペンネーム「不木」の由来



蟹江町須成の後藤道政氏に宛てた手紙に「不木の雅号は、中学時代に見つけたものをそのまま使っている。初めは、頭角を現さず【不】、後に頭角を現す【木】のが本当の人間だというような言葉を漢文で読み、それをそのまま雅号にしたものである」と記している。

## 不木の最期を伝えるデスマスク



遺族から平成15年12月にデスマスク・肖像画・直筆扁額「至誠無息」、16年1月に文筆などの諸資料、さらに19年3月に愛用の机を蟹江町にご寄贈いただいた。  
「至誠無息」は「やむことのない至上の真心」を意味し、不木の飽くなき文学・研究活動と生きざまが表れている。  
蟹江町歴史民俗資料館所蔵

## 江戸川乱歩揮毫の不木碑



蟹江町歴史民俗資料館

昭和36年不木33回忌の際に、名古屋市八事霊園に建碑され、平成21年10月に遺族のご厚意により蟹江町歴史民俗資料館へ移設。  
不木は、江戸川乱歩の処女作「二銭銅貨」を絶賛し、乱歩の文筆活動を援助した。  
不木と乱歩の往復書簡は、大正末期から昭和初期にかけて、150通を超える。

## 「ねんげ句会」発起人として



鹿島神社文学苑

不木は俳人としても活躍し、仲間を集めて「ねんげ句会」を発足した。鹿島神社文学苑には、不木が詠んだ句碑が建立されている。  
文学苑は、当町出身の同会同人で建築家の故黒川巳喜氏が私財を投じ、昭和43年から18年の歳月をかけて、著名な俳人やこの地方の文化人の俳句を句碑にして敷地内に建設した。

## 黒川紀章氏揮毫の生誕地碑



蟹江町図書館東

平成16年4月に没後75周年を記念して、地元有志によって蟹江町図書館東に建立。揮毫は、同じ新蟹江小学校卒業生の建築家故黒川紀章氏によるもの。  
碑の裏には不木が詠んだ「読みかけし 八犬傳や水ぬるむ」と水郷蟹江にふさわしい句が刻まれている。



## 小酒井不木資料室 (第1展示室)

蟹江町歴史民俗資料館内  
(城一丁目214番地)  
午前9時～午後5時  
**休館日** 毎週月曜日  
**入場料** 無料  
☎0567(95)3812